

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2021 年 8 月

「天国で」「天の帰化の儀式（Ⅲ）」「神の律法の性質」「オートミールとキャベツのメンチカツ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「天の帰化の儀式 (Ⅲ)」

4

聖書の教え

朝のマナ

天国で

8

In Heavenly Places

現代の真理

「神の律法の性質」

40

キリストと律法

力を得るための食事

「オートミールとキャベツのメンチカツ」

46

レシピ

お話コーナー

「救われた者の家郷 (Ⅰ)」

48

イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2021年7月4日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

成功の秘訣—キリストと共にくびきを負う

主は、説教をするためだけでなく、絶望している者を助け、希望のない思いに希望を吹き込むために、自らに働いていただくために自分自身を捧げるすべての魂を通して働かれる。わたしたちはこの生涯の困難や神秘を軽減し、やわらげるために自分の役割を果たすべきである。この生涯の悲しさは、幾千年前と同様に暗く、曇っている。わたしたちにはなすべき事がある。「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから」（イザヤ 60:1）。

困窮している人々がわたしたちの近くにおり、苦しんでいる人々は、まさにわたしたちの境界線内にいる。彼らを助けようと試みなければならない。キリストの恵みによって、熱心なキリストのような働きという封じられた泉の封印が解かれなければならない。すべての力をもっておられるお方の力のうちに、わたしたちはかつてなかったほど働かなければならない。欠乏と必要の時は、確かにわたしたちが、存在なさる力に満ちた主なるエホバを必要としている事を示している。このお方のうちにはとこしえの力があり、このお方の力のうちにわたしたちは働くことができる。「わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である」（コリント第一 3:9）。

成功の秘訣はわたしたちの学識やわたしたちの地位にあるのではない。なぜなら、「あなたがたはみな兄弟」であり、わたしたちの数や委ねられたタラントや、人の意志の中にあるのではない。すべて主の働き人たちは、自分たちの力不足を感じつつ、キリストを熟考しなければならない。そしてすべての力の力、あらゆる思想の思想であられるお方を通して、自発的に従う人は勝利の上にも勝利を得る。イスラエルの主なる神がわたしたちの力であられる。

わたしたちは、今日、明日、たえず自己をへりくだらせなければならない。自発的な聖化された心をもって、神と協力しなければならない。わたしたちはサタンが大いなる力を持って下ってきた時代に生存している。彼はほえたけのしのように歩き回り、食いつくすべき獲物を探し求めている。しかし、主はわたしたちがキリストと共にくびきを負うことを妨害している罪を取り除く準備をしておられる。もしわたしたちがキリストのくびきを負うならば、このお方はわたしたちのインマヌエル「神われらと共にいます」になって、すべての弱さにご自分の強さで、すべての力不足をご自分の成功の力で満たしてください。しかし、もしわたしたちが自らに栄光を帰すなら、このお方はご自分の卓越した力をわたしたちから取り上げ、それ以上わたしたちは成功しながら進むことはない。…

神は日々わたしたちと共にいてくださらなければならない。ご自分を学ぼうにわたしたちを準備させ、わたしたちがこのお方いつも共にいることができるように、このお方がわたしたちに完全な従順という教訓を教えてください。 (原稿リリース 21 卷 338-339)

第23課 天の帰化の儀式(Ⅲ)

バプテスマの後

イエスはバプテスマを受けられたとき、天からの承認をお受けになりました。「イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはとのように自分の上を下ってくるのを、ごらんになった。また天から声があって言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』。」「(マタイ 3:16,17)。

信徒もまた、バプテスマを受けることにより、神によって愛する息子、娘として受け入れられます。彼らは今や、神格、すなわち父なる神、キリスト、聖霊の管轄の下におかれるのです。

イエスは、バプテスマの後、御霊によって荒野へ導かれ、そこで神との密接な交わりのうちにおられました。40 日間におよぶ断食と御父との交わりが終わると、悪魔がイエスのところへ三つの大きな誘惑、すなわちあらゆる他の罪を生じさせる誘惑を持ってやってきました。食欲、僭越、世に対する愛着です。イエスは、それら一つ一つに打ち勝たれました。

悪魔はイエスに対して行ったように、バプテスマの後まず、新しく見いだされた信仰や誓いを弱めるために、疑いをほのめかします、「もしあなたが」と!もし、わたしたちのイエスとの緊密なつながりが、疑いや疎遠によって弱められますと、その時こそ、サタンのはのめかしが足がかりを得る道が開かれることになります。キリストが勝利されたように、すべての信徒も誘惑者に勝利するための力をキリストから受けるのです。わたしたちはいつも、イエスの近くにとどまっていなければなりません。

「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこ

うではないか」(ヘブル 4:15,16)。

「そこで、悪魔はイエスを離れ去り、そして、御使たちがみもとにきて仕えた」(マタイ 4:11)。

バプテスマを受けた人が教会員となると、その人の名前は教会の帳簿に記載され、また天における命の書にも登録されます。その教会の行為は、天においても受け入れられます。

「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなわれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」(マタイ 16:19)。

こうして、バプテスマを受けた人は、キリストの体の肢体、すなわちキリストの教会のメンバーとなります。「なぜなら、わたしたちは皆、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、そして皆一つの御霊を飲んだからである。実際、からだは一つの肢体だけではなく、多くのものからできている」(コリント第一 12:13, 14)。

「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである」(エペソ 2:19)。

バプテスマを受け、神の教会に受け入れられた後、信者は霊的な事柄について知識を増し、絶えず品性の完全へ向かって向上すべきです。その事柄を体験すべきであり、また品性を完成させるために継続的に成長すべきである。そのため、ペテロは次のように述べた。「今生れたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。それによっておい育ち、救に入るようになるためである。」(ペテロ第一 2:2)。

バプテスマの後のクリスチャンの経験が向上していくことは、イエスの譬の中でも描写されています。「種は芽を出して育って行く... 初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる。」(マルコ 4:27, 28)。

トウモロコシの芽が出ることは、改心をあらわしており、トウモロコシの穂の中に豊かな実ができることは、品性が完成したことをあらわしています。わたしたちの霊的な成長が完全になることが、神の理想であることを悟って、パウロは次のように記しました。「わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。兄弟たちよ。わたし

はすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標をみざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである」(ピリピ 3:12-14)。

御父、御子、聖霊の名によってバプテスマを受けた人はみな、新しい被造物となり、かつての会話は捨て去らなければなりません。なぜなら、救いとはまさに、古い利己心と罪の生活からの解放だからです。この自由をわたしたちに与えるために、キリストは地上に来られたのです。

「わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架につけられた。それは、この罪のからだが減び、わたしたちがもはや、罪の奴隷となることがないためである。それは、すでに死んだ者は、罪から解放されているからである」(ローマ 6:6,7)。

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」(コリント第二 5:17)。

バプテスマを受けた信者には、今やキリストの体の一部となり、教会との関係において様々な権利や特権があります。彼らは、主の聖餐にあずかることができます。彼らは、教会の活動について話し合う機会を得ます。彼らは、投票したり、投票されたり、教会における役職についたりする資格が与えられます。特権と共に責任が伴います。彼らは教会を支え、出席し、協力すべきです。キリストの体の一部として、彼らが他の教会員と一致し、調和しながら働き、地上における神の働きを支えるときに、彼らの生活はクリスチャン品性の完全に向かって、継続的な成長をあらわすはずです。

そのように共に働き、成長することにより、教会は団体として完全に至り、主イエスが再臨されるときにこのお方に会う準備ができるのです。

天国で

In Heavenly Places



8月

8月1日

わたしたちは神の所有である

「主こそ神であることを知れ。われらを造られたものは主であって、われらは主のものである。われらはその民、その牧の羊である。」(詩篇 100:3)

神は人を創造され、体と魂と霊の機能をすべてお与えになった。主イエスは、何も比べうるものがないほど完全で十分な価をもって人間を買われた。人はすでに主ご自身のものでないものを何か神にお捧げすることができるであろうか。神が機能をお与えになったのであり、これらの機能はすべて神に属するものである。これはあなたの経験が始めから終わりまで、キリストとくびきでつながっているものでなければならないことを意味している。心の柔和とへりくだりの教訓は、あなたをキリストの苦難にあずかる者とし、キリストの命の徳の真価を理解するものとする。

あなたのみ力によってわたしを保ってください、わたしの足のすべらないようにしてください、わたしの心に自己を高めるための野心的な計画が満たされないようにしてください、というのが絶えざる祈りとなる。……わたしがキリストの恵みによって満たされ、キリストが「わたしがあなたがたを愛したように」(ヨハネ 13:34)と祈ってくださった愛を持つことができるように、自己を空にする方法をどのように実践するか、わたしに教えてください。わたしは他の人々を恵みで満たしてあげられるように、恵みを受けなくてはなりません。ああ、わたしが神の性質を受けて、わたしの兄弟たちを愛することができるように、わたしの魂をもつと神に近くおいてください。主よ、どうぞ、わたしが自分では何一つ真実に純粋な意味をもってなすことができないことを悟ることができるようお助けください。自己、自己がもっとも聖なる働きにおいてさえ、認めてもらおうと絶えず活動するのです。……

わたしたちの働きは、各々わたしたちがこれを行うことを可能とするためにご自分の命を与えてくださったキリストのご品性を模写しなくてはならない。わたしたちは、世に対して、自分たちが代価をもって買われた神の子であり、神の戒めを守るというのがどういうことかを示しつつ、言葉や声の調子や、あがないの愛の親切のうちに実を結んでいるという証拠を表すであろうか。……

与えられた恵みは、わたしたちには計り知れない価を天に払わせた。恵みはわたしたちの最上級の宝であり、キリストはそれがわたしたちを通して伝達されるようにと意図された。それは、キリストの名によって、魂を救うために神聖である。それは神の誉れをあらわすことであり、このお方の栄光を明らかにすることである。それなのに、信心を告白する男女が、賜物を誤って解釈し、与え主をないがしろにして代替物を提示するということがあるであろうか。(原稿 182, 1903 年)

わたしたちの所有物はすべて神からくる

「しかしわれわれがこのように喜んでささげることができても、わたしは何者でしょう。わたしの民は何でしょう。すべての物はあなたから出ます。われわれはあなたから受けて、あなたにささげたのです。」(歴代志上 29:14)

この地上で生きる者は、すべての賛美と栄光を創造主に帰すことにおいて、天の万軍と一つになるべきである。だれ一人、誇ったり、自己を高めたりする理由は微塵もない。……

神は絶えず、人間の不足を補うために働いておられる。悔い改めでさえ、恵みが適用されることによってもたらされるのである。生来の心は悔い改めの必要を感じない。自分の罪深さに対する悲しみのために、また他の罪人に対する同情のために人の目から落ちる涙が、自然にこぼれはじめる。それらは神に属する目から落ちる露のようである。……改革された生涯は神の御子イエスの犠牲によってあがなわれた生涯をよりよく生きたにすぎない。わたしたちがなし得るものがなんであって、わたしたちはその功績を自分に帰すべきではない。……

信仰もまた、神からの賜物である。信仰は、心を神のご奉仕へと結びつける神のみ言葉に対する人の理解に同意することである。そして、もしそれが神からのものでないとすれば、いったいだれのものなのか。信仰を持つということは、わたしたちがこのお方から受けた知性と精力を神にお捧げすることである。であるから、信仰を働かせる者たちは、自分自身にその功績を帰する資格はない。自分たちが無限の確信をもって天父に信頼できると堅くこのお方を信じている者、信仰によって墓の向こうを通り越してかなたの永遠の現実に到達している者は、自分たちの造り主に「すべての物はあなたから出ます。われわれはあなたから受けて、あなたにささげたのです」との告白を注ぎださなければならない。……

天から与えられた能力は利己的な目的のために用いられるべきではない。あらゆる精力、あらゆる才能は、このお方の奉仕のうちに用いられることにより、神の栄光に寄与するべきである。……

だれ一人、自分の行いを語ったり、自分の能力を誉めそやしたり、自分の知識をひけらかしたり、また虚栄心を培ったりすることによって、自己を高めようとしないようにしよう。キリストは決して自己過信や自己を高めたりなさらなかった。(ビュー・アンド・ヘアルド 1904 年 12 月 1 日)

神が尋常でない賜物を委ねてくださった者は、他の人々に自分の祝福の恩恵を惜しみなく与えることによって、主の宝庫に自分の受け取ったものを戻すべきである。こうして、神があがめられ、栄光をお受けになるのである。(同上)

8月3日

わたしたちの負っている負債

「あなたは、わたしの主人にどれだけ負債がありますか」(ルカ 16:5)

「あなたがたは知らないのか。……あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ」(コリント第一 6:19, 20)。わたしたちのためには、なんという代価が支払われたことであろう！十字架を眺めなさい。そして、そこにかけられている犠牲を見なさい。その残酷な釘で貫かれた両手を見なさい。木にくいで打ちつけられたこのお方の両足を見なさい。キリストはご自身の体にわたしたちの罪を負ってくださった。この苦しみ、この苦悩があなたのあがないの代価なのである。……

キリストのうちにあらわされた神の驚くべき愛は、全天の世界の科学であり歌である。これはわたしたちから感謝と賛美を呼び起こさないでいられようか。……義の太陽の祝福の光がわたしたちの心のうちに輝くとき、そして、わたしたちが主にある平安と喜びに憩うとき、そのときわたしたちは主に賛美しよう。……このお方を言葉だけではなく、わたしたちの全存在、また全所有物をこのお方に捧げすることによって賛美しよう。

あなたは、わたしの主人にどれだけ負債がありますか。あなたはこれを計算することはできない。あなたの存在のうち、何か主があがなわれなかった部分があるであろうか。あるいは、あなたの所有物のもののうち、すでにこのお方のものではないものが何かあるであろうか。このお方がそれをお求めになるとき、あなたは、それを利己的に自分自身のものとしてつかんでいるのでであろうか。あなたは、それをとっておいて、魂の救い以外のほかの目的のために使うのでであろうか。何千もの魂がこうして失われている。わたしたちはいかにして、わたしたちが神の犠牲とわたしたちの世に対するこのお方の偉大な贈与を感謝していることを、神がわたしたちを愛してくださった大いなる愛のゆえにわたしたちの唇から出る賛美と感謝と共に、贈り物と捧げ物を送る以上によりよく示すことができるであろうか。……

嘆願のうちに天を仰ぎつつ、自らを神の僕として神に差し出しなさい。そして、主よ、あなたご自身のものを、わたしはあなたにお捧げします、といって、あなたの持っているものをすべてこのお方のものとして差し出しなさい。カルバリーの十字架とあなたのために十字架につけられた無限の神の御子の光景のうちに立ち、驚くばかりの恵みをあらわす比類のない愛を悟って、主よ、あなたはわたしに何をおさせになりたいのですかと、熱心に尋ねなさい。このお方は、あなたにお命じになった。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マルコ 16:15)。あなたが神の王国でああなたの贈り物やあなたの奉仕を通して救われた魂に会うとき、あなたは、この働きをする特権を与えられたことを喜ぶであろう。……使徒の持っていたのと同じ力が今、神の奉仕を行う者たちのためにある。(原稿 139, 1898 年)

心を探る時

「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。」(コリント第二 13:5)

個人の人間性への主張は、神が自分に与えてくださった力を彼がどのように用いるかによって決定する。人類家族のメンバーは、彼らが自分たちのタラントを他人の善のために用いるときにのみ、人としての称号を得る。人が神に最も近く同盟を結ばせるのは、他人に奉仕するときである。自分に神が与えてくださった人間性に対して真実である者は、この生涯において自分の人間仲間の幸福を増進させるばかりではなく、彼らが来るべき生涯の報いを我が物とするのを助けるのである。……

人は、神を力と思いと強さをもつて最上に愛し、隣人を自分自身のように愛するように要求されている。これは人が自分を否定しない限りできるものではない。自己を否定することは、感情が至上権を求めて奮闘するとき、精神を律することを意味する。とがめたり、あら捜しの言葉を語ろうとする誘惑に抵抗すること、鈍くて、その振る舞いが嘆かわしく、しゃくにさわる子供に忍耐すること、ほかの人が行わなくても義務の地位につくこと、いつでもどこでも、義務が要求するときは、賞賛を得るためではなく、政略のためでもなく、ご自分に従う者たちに揺るがない忠誠をもつてなされるべき働きをお与えになった主人のために、責任を取り上げることを意味する。自己を否定することは傾向がわたしたち自身に仕え、喜ばせるようにする時、善を行うことである。それは私たちの努力が感謝されていないように見えるときにも、他人の利益のために忍耐強く喜んで働くことである。……

クリスチャン同胞の方々、神のみ言葉が本当にあなたの生活の規則となっているかどうかを注意深く吟味しなさい。あなたは祈りの場所から離れるとき、キリストを自分と共にお連れしているであろうか。あなたの宗教はあなたの唇の門守となっているであろうか。あなたの心は助けを必要としている人々の利益と同情におもむいているであろうか。あなたは、他人に光を輝かすことができるために、熱心に神のみ旨をもっとはつきりと理解することを求めているであろうか。あなたの言葉は恵みで味付けられているであろうか。あなたの態度はクリスチャンの高潔さを示しているであろうか。……

あなたはいつも見張りとし祈りによって支えられている必要があることを覚えていなさい。あなたがキリストを見ている限りは安全である。しかし、あなたが自分自身を信頼したとたん、あなたは大変な危険のうちにいるのである。神と調和している者は絶えず、助けを求めてこのお方により頼むのである。(レビュー・アンド・ヴァルト 1907年7月11日)

8月5日

わたしたちのタラントを 神のために用いる

「また天国は、ある人が旅に出るとき、その僕どもを呼んで、自分の財産を預けるようなものである。すなわち、それぞれの能力に応じて、ある者には五タラント、ある者には二タラント、ある者には一タラントを与えて、旅に出た。」(マタイ 25:14, 15)

タラントの譬えは、理性の力を持っているすべての男女、また子供に、個人的にあてはまる。……家の主人が自分の僕を呼んだとき、彼はすべての人にその人の仕事を与えた。神の全家族には自分たちの主の財産を用いる責任がある。すべての個々人は、最も身分が低く目立たない者から、もっとも偉大で最も高められた人まで、神に対して説明責任のある能力を与えられた道徳的な存在である。……霊的、精神的、また肉体的能力、感化力、地位、所有、愛情、同情、すべてはキリストがそのために死なれた魂の救いのための主人の働きに用いられるべき貴重なタラントである。

何とこれらの祝福を感謝している者が少ないことであろう！自分たちのタラントを向上させ、世における自分たちの有用性を増し加えている者が何と少ないことであろう！主人はすべての人にその人の仕事をお与えになった。このお方はすべての人にその能力に従って与えてこられた。そしてこのお方の信任はその能力に比例している。……実業家は、その忠実さのために自分の主人に栄光を帰する方法で仕事をしなさい。自分の宗教を、なすすべてのことに持ち込み、人々にキリストの精神を表しなさい。機械工はユダヤの町で人生のつましい歩みのうちに骨折られたお方の謹厳で忠実な代表者となりなさい。……

よりすぐれたタラントを持って祝福された者は、自分たちより少ない賜物を与えられている人々の奉仕の価値を低く考えてはならない。もっとも小さな信任も神からの信任である。神の祝福をもって、一タラントは謹厳に用いることによって倍になり、そしてキリストの奉仕に用いられた二タラントは四タラントに増し加わるのである。そして、こうして最もつましい器が力と有用性のうちに成長する。

熱心な目的、自己否定のすべての努力は、天の神に知られ、真価を評価され、受け入れられる。……あなたの賜物を柔和とへりくだりと信頼する信仰のうちに用い、そして清算の日まで待ちなさい。そうすれば、あなたには悲しんだり 恥ずかしがったりする理由がない。(ビュー・アズ・ヘルド 1911年10月26日)

犠牲の道

「それから、みんなの者に言われた、『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。』」(ルカ 9:23)

キリストはご自分が生きられたようにわたしたちも生きなければならないと宣言しておられる。……このお方のみ足の跡は犠牲の道へと導く。わたしたちが生活を通じてこの道を行くとき、数多くの奉仕のための好機に出会う。わたしたちの周囲のいたるところで奉仕のために戸が開かれている。言葉のタラントを正しく用いることによって、わたしたちは主人のために多くのことをなすことができる。言葉は、それがキリストの優しさと同情を担うとき、善への力である。金銭、感化力、技能、時間、強さといったこれらすべてのものは、わたしたちが周囲にいる人たちにとってより助けとなるように、そして、わたしたちの創造主により誉れとなるようにと、わたしたちに委託された賜物である。

多くの者は、キリストがこの地上での生涯を送られた場所に訪れること、このお方が歩まれたところを歩み、このお方が教えることを愛された湖、またこのお方の目がしばしば留まった谷や丘を眺めることを特権だと感じている。しかし、わたしたちはイエスの道に踏み従うためにパレスチナに行く必要はない。わたしたちは病床の傍らに、貧しいあばら家に、大都会の混雑した裏通りに、そして慰めを必要としている人間の心があるところはどこでも、このお方のみ足の跡を見出すのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1912年2月29日)

わたしたちが小さな水の流れを、その流れによってできたいきいきとした緑の帯に沿ってたどるとちょうど同様に、キリストの道を一步ごとに特徴づけていたあわれみの行いのうちに、このお方を見出すことができた。このお方が行かれたところはどこでも、健康が沸きあふれ、このお方が過ぎられたところはどこでも、幸せが続いた。盲人や耳の聞こえない者がこのお方のご臨在を喜んだ。キリストの顔が多くの目が始めて見たものであり、このお方の言葉が彼らの耳にはじめて聞こえたものであった。……無知な者に語られたこのお方の言葉は、彼らに命の泉を開いた。このお方はご自分の祝福を豊かに絶え間なく施された。それらは集められた永遠の宝であり、人間に対する主の豊かな賜物であった。(同上4月25日)

無知と罪の鎖に縛られ、今にも死のうとしている幾百万につぐ幾百万という魂は、自分たちのためのキリストの愛を一度もこれほどまでに聞いたことがなかった。わたしたちの状態が彼らと入れ替わっていたら、わたしたちは彼らに何をしたいと望むであろうか。これらすべてを、わたしたちの力が及ぶ限り、わたしたちは彼らのためになすべきもつとも厳粛な義務の下にいる。すべての人が裁きのときに耐えられるか、倒れるかが決まるキリストの命の規則は、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよである。(同上2月29日)

8月7日

義務の声

「すべてあなたの手のなしうる事は、力をつくしてなせ。」(伝道の書 9:10)

義務の声は神の声である。それは、先天的な、天から送られた案内である。それが望ましいものであっても、望ましくないものであっても、わたしたちは、わたしたちの行く道に横たわっている義務を行わなければならない。もし主がわたしたちにニネベの町へメッセージを携えていくことを望まれるなら、わたしたちがヨッパやカペナウムに行くことはこのお方にとって喜ばしいことではない。神にはわたしたちの足が向けられるところへわたしたちを遣わす理由がありである。……

魂を盲目にし、神から魂を引き離すのは、ぶどう園を荒らす小ぎつね、すなわち小さな怠慢、小さな欠点、小さな不正、小さな原則からの逸脱である。

精神を発達させ、品性を決定づけるのは、生活の小事である。小事をなおざりにする者たちは、彼らが厳しいテストを担うような状況に置かれる時その準備ができていない。品性建設は、生涯を閉じるまで終わらないということを覚えていなさい。毎日、善か悪かのレンガが建築物に積まれているのである。あなたはゆがんで建てているか、あるいは厳密に正しく、神のための美しい宮になるよう建てているかのどちらかである。であるから、偉大なことをしようと待ち望んで、日ごとにあなたに訪れる小さな好機をなおざりにしてはならない。小事をなおざりにしていながら、主人のためにすばらしいことをなす用意ができていと自負する者は、まったく失敗してしまう危険がある。生涯は大きな犠牲やすばらしい偉業によって成り立っているのではなく小事によって成り立っているのである。(ビュー・アンド・ワールド 1910 年 12 月 29 日)

すべてあなたの手のなしうる事は、力をつくしてなせ。あなたの働きを賛美の歌によって心地よいものとしなさい。もし、あなたが天の書にきれいな記録を持ちたいならば、決していらだったり、しかりつけたりしてはならない。「主よ、最善が尽せるように助けてください。……力と快活な精神を与え、わたしの働きの中に救い主の愛の奉仕が実行できるようにしてください」と日ごとに祈りなさい。

すべての義務を、それがどんなに卑しいものであっても、神聖なものとみなしなさい。なぜなら、それは神の奉仕の一部だからである。何ものもあなたに神を忘れさせてしまうようなことがあってはならない。あなたのなすすべてにキリストを持ち込みなさい。そのとき、あなたの生涯は輝きと感謝に満ちるようになる。あなたは自分の最善をなし、主の奉仕のうちに快活に前進し、あなたの心はこのお方の喜びに満たされるのである。(手紙 1, 1904 年)

一日だけ

「主は全き者のもろもろの日を知られる。彼らの嗣業はとこしえに続く。」(詩篇 37:18)

時というタラントは貴重である。毎日、それはわたしたちに信任のうちに与えられている。そしてわたしたちはそれに対する説明責任を求められるのである。(原稿 15, 1898 年)

毎日、わたしたちはこの生涯における有用性のために訓練され、律せられ、そして教育されなければならない。一度に一日が与えられているだけである。これを考えなさい。一日だけがわたしのものである。わたしは、この日にわたしの最善を尽くす。わたしはわたしの言葉のタラントをだれか他の人の祝福となるように、助けとなるように、慰めとなるように、また主なるわたしの救い主が是認される模範となるように用いる。わたしは忍耐と親切と寛容のうちに自ら働く。それはクリスチャンの徳がわたしのうちに今日発達するためである。(同上 36, 1901 年)

もし、あなたが今日神と正しいなら、あなたはキリストが今日来られても準備ができています。わたしたちが必要としているのは、うちに形成されるキリスト、すなわち栄光の望みである。わたしたちはあなたが深く誠実なイエス・キリストの義に対する切望を持つよう望んでいる。あなたの古くてぼろぼろの自己の義という衣が、神の王国にあなたをに入らせることはない。しかし、天の織機で織られた衣、すなわちイエス・キリストの義は入らせるのである。それはあなたに聖化された者たちのうちの嗣業を与える。それこそ、わたしたちの望むものである。それらは、全世界のもうけよりも価値がある。それは、あなたのすべての農場よりも価値がある。それは有限な人間があなたに与えることのできるすべての誉れ以上に価値がある。……

あなたは個人的に、天の家族と一つになれるように日ごとに準備しているであろうか。あなたはこの地上で短気な者であろうか。あなたはここで自分の家族に欠点を見つけ出しているであろうか。もし、あなたがそうしているなら、あなたは天で彼らの欠点を見つけ出すであろう。あなたの品性はこの生涯で試され、あなたが天にある神の王国の平和な臣民であるかどうか証明されなければならない。(原稿 36, 1891 年)

主はわたしたちが今日の義務を行い、その試練に耐えるようにと命じておられる。わたしたちは今日言葉や行いにおいて罪を犯さないよう見張るべきである。わたしたちは今日、神を賛美し、神に栄光を帰さなければならない。生きた信仰を働かせることによって、わたしたちは敵に勝たなければならない。わたしたちは今日、神を探し求め、わたしたちはこのお方のご臨在なしには決して満足して安んじることはしないと決心しなければならない。わたしたちはあたかも今日がわたしたちに与えられた最後の日であるかのように見張り、働き、祈らなければならない。そうであれば、どれほどわたしたちの生活は熱烈で誠心なものとなることであろう。わたしたちは自分たちのすべての言葉と行いにおいて、どれほど厳密にイエスに従うものとなることであろう。(教会への証 5 巻 200)

8月9日

各自自分の持ち場で

「人にはではなく主に仕えるように、快く仕えなさい。」(エペソ 6:7)

主はわたしたちを個人的にご存知である。この世に生まれた一人びとりには、この世界をより良くするという目的のためになすべき自分の働きが与えられている。……各人に自分の領域がある。そしてもし人間が神を自分の相談者とするならば、そのとき、神と食い違って働くことはなくなる。神はすべてのものに場所と働きをあてがっておられる。であるから、もしわたしたちが各々、自らを主に働いていただくようにお捧げするなら、どれほど生涯がわたしたちの目には混乱して絡み合っているように見えたとしても、神はそれらすべてのことにおいてご目的を持っておられ、神の知恵のみ手の下に従順な人間という機械は、神のご目的を成し遂げるのである。よく規律の取れた軍隊においてすべての兵士が自分の持ち場を与えられ、全体の強さと完全に貢献する際、自分の分を果たすことが要求されているのと同様に神のための働き人は神の偉大な働きにおいて与えられた分をなさなければならない。

今、現れている生涯は、神がそうあるべきだとして計画されたものではない。これが、これほど多くの困惑が存在する理由である。多くの磨耗と摩擦がある。自分の傾向を満足させ、自分自身が考案した計画を実行するために、神が自分に与えてくださった場所を離れた男女は、失望に会う。なぜなら、彼らは神の道の代わりに自分の道を選んできたからである。

責任のある地位を引き受けながら、責任感を感じることなく、したがってその性質をまったく理解することなく、場当たりの働きをする者がある。またある者は、まったく適性のない働きを引き受ける。……他の個々人は自分自身の方法をもって、自分自身の計画を実行するために研究する。そして、神はご自分の防壁を建てられ、彼らがしたいようにはおさせにならないのである。……

わたしたちの天父は、わたしたちの統治者であられる。そしてわたしたちはこのお方の規律に屈服しなければならない。わたしたちはこのお方の家族の一員である。このお方はわたしたちの奉仕に対して権利を有しておられる。そしてもしこのお方の家族のメンバーの一人が、自分自身の道に固執し、あくまでも自分のしたいようにするのであれば、その精神は事態に混乱と困惑をもたらすのである。わたしたちはわたしたち自身の方法をもつためではなく、神の方法と 神のみ旨をもつために研究しなければならない。……

神に語っていただきなさい。そしてわたしたちは「神よ、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」と言うのである。(手紙 6, 1896 年)

奉仕における喜び

「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、すべての人の僕とならねばならない。」(マルコ 10:43, 44)

奉仕における生涯においてのみ、真の幸福が見出される。役に立たない利己的な生涯を送る者は惨めである。彼は自分自身にも、ほかの人にも満足できない。主は、ご自分の働き人たちが自分たちに任命された持ち場を占める準備ができるように律せられる。こうして、このお方は、彼らをもっと受け入れられる奉仕をするのにふさわしい者となさることを望まれる。……

神が自分のために定めてくださった場所で快活に神に仕えることに満足しない者、またこのお方が自分の手の内においてくださった働きをつぶやかずにすることに満足しない者が多い。わたしたちが自分の義務を行う方法に満足しないことは正しいことであるが、わたしたちはむしろ何かほかの事をしたいからといって、義務そのものに不満であってはならない。神はご自分のみ摂理のうちに、人間の前にその病んだ思いに対する薬として奉仕を置いてくださる。こうしてこのお方は、彼らがもし大事にしているならば、彼らをご自分が彼らのために用意しておられる働きに不適格なものとしてしまう利己的な優先順位を、彼らが脇に置くように導こうとなさる。(ビュー・アズ・ハルト 1907年5月2日)

支配力を持ちたいと望んでいる者、そして服従の聖化を必要としている者がいる。神は彼らの生活に変化をもたらされる。おそらく、このお方は彼らの前に、彼らを選びたくないような義務をおかれるであろう。もし、彼らが喜んでこのお方に導かれるならば、このお方は彼らにこれらの義務を服従と有用性の精神をもって行うことができるように、恵みと強さを与えてくださる。こうして、彼らは彼らの律せられた能力が彼らを大きな奉仕をする立場を占めるのにふさわしい者とされるのである。

ある者は、神が失望や一見失敗と思われることをもたらされ、訓練される。彼らが困難を克服することを学ぶのが神のご目的である。このお方は彼らをすべての一見失敗と見えることを成功に変える決心をもって奮起させられる。

しばしば人間は自分たちが直面している困惑や生涯のために祈り、涙を流す。しかし、もし彼らがはじめの確信を最後まで持ち続けるならば、このお方は彼らのために道を明らかになさる。彼らが一見克服できないような困難に対して奮闘するとき、成功がそれらの後に続き、そしてその成功に大きな喜びが伴うのである。(同上)

8月11日

キリストの愛を実践する

「兄弟の愛をもって互にいつくしみ、進んで互に尊敬し合いなさい。」(ローマ 12:10)

わたしたちは、自分に没頭し、神と人類のわたしたちに対する要求を忘れてしまうようなことを許してはならない。……神はわたしたちがもっと親切で、もっと愛し、愛される者となり、批判や疑いを少なくすることを望んでおられる。ああ、わたしたちが皆、キリストの精神を持っているならば!そしてわたしたちの兄弟や隣人をどのように取り扱うべきか知っているならば!……

わたしたちは他人に対する愛の奉仕において自己を忘れるべきである。……わたしたちは自分たちの行った親切な行為を忘れてしまい、それは記憶から消えてしまうかもしれない。しかし、永遠が、魂の救いのためになされたすべての行為、神の子らを慰めるために語られたすべての言葉をその完全な輝きのうちに明らかにするのである。そしてこれらのキリストのためになされた行為は永遠にわたってわたしたちの喜びの一部となる。

わたしたちは、自分たちの兄弟に対する親切や礼節以外の行動をとるときには何であっても、クリスチャンらしくない行動をとっているのである。わたしたちは家庭で、教会で、またすべての人との交わりの中で礼節を示すべきである。しかし、特別にわたしたちは自分たちの生涯を神のみ働きのために捧げている者たちに対する同情と敬意を示すべきである。わたしたちは寛容で親切である尊い愛を働かせるべきである。それはねたむことをしない。高ぶらない、誇らない。不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。……イエスが心を治められるところではどこでも、芳しい愛がある。そしてわたしたちは優しく、互いに真実になる。……

あなたはどんなあら捜しもしてはならない。一瞬のかんしゃく、一回のつっけんどんな応答、小さなことにおけるクリスチャンの礼儀と礼節の欠乏が友人を失い、感化力を失う結果となるかもしれないのである。神はあなたがいかなる状況下でも、それがあなたより劣る人々のいるところであっても、あるいはあなたと同等かあなたより優れた人々のいるところであっても、あなたが最善の状態で見られることを望んでおられる。わたしたちはいつも、キリストに従う者でなければならない。このお方の誉れを求め、このお方をあらゆる方法で正しく代表することを求めなければならない。……

自己が視野から消えてしまうようにしようではないか。そしてイエスがまったく愛すべきお方として現れるようにしよう。わたしたちは、人がわたしたちを賛美することなく、このお方の栄光のためだけに生きるよう求めるべきである。(ビュー・アンド・ワールド 1891年2月24日)

自制を発達させる

「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。」(箴言 16:32)

わたしたちが信頼の置ける歩哨となるのは、小事における忠実さによってである。注意深く小さな苛立ちに対して防備し、それらがあなたの魂を悩ませることがないようにしなさい。そうすれば、あなたはたくさんの勝利を獲得することになる。そしてあなたにもっと大きな問題がおこったとき、雄々しく、高潔に敵に抵抗する準備ができています。……各々の魂は、品性に何らかのキリストに似ていない特質を受け継いでいる。これらの悪に対する傾向をキリストの支配下に置くというのは、生涯の大きく、また高尚な働きである。わたしたちの自制心を失わせる原因となりやすいのはわたしたちの道を阻む小事である。(手紙 123, 1904 年)

この地上に居る以上、わたしたちは敵対する勢力に会うのである。自分の気性をためす試練にあうが、正しい精神でこれに応ずることによってクリスチャンの美德が養成される。もしキリストがわたしたちのうちに宿っておられるならば、わたしたちは煩悶や、いらだちにあっても、忍耐強く、親切で寛容で快活である。日々、また年ごとにわたしたちはおのれに勝利し、りっぱな英雄になっていくのである。これがわたしたちに定められた仕事であるが、イエスの助けと堅い決心、不動の決意、不断の注意、そして絶えず祈ることなどがなければ完成できない。それぞれに戦わなければならない自分の戦いがある。わたしたちが神と協力しなければ、神でさえもわたしたちの品性をりっぱにし、生涯を有用なものとなさることはできない。戦いをこぼむ者は、勝利する力と喜びを失う。

わたしたちは自分の試練、苦難、不幸、悲嘆を記録しておく必要はない。これはみな書にしるされて天に保管されている。(ミストリー・オブ・ヒーリング 471, 472)

神はあなたが神に自分の心を開くとき、理解してくださる。このお方は各人が必要としている訓練をご存知である。もしあなたがこのお方に求めるならば、このお方は間違いなく、あなたに悪に抵抗する力を授けてくださる。あなたの信仰は増し加えられ、そしてあなたが他の人々に神の保護の力の証拠を示すのである。

あなたの強さと恵みにおける成長は一つの源からのみもたらされる。もし、あなたが誘惑され、試みられるときに、正しいことのために雄々しく立つならば、勝利はあなたのものである。あなたは一步クリスチャン品性の完全へと近づくのである。天からの聖なる光があなたの魂の部屋を満たし、そしてあなたは純潔で芳しい大気に囲まれるのである。(手紙 123, 1904 年)

8月13日

利己心に打ち勝つ

「わたしもまた、何事にもすべての人に喜ばれるように努め、多くの人が救われるために、自分の益ではなく彼らの益を求めている。」(コリント第一 10:33)

多くの人の心にらい病のように絡みついている利己心の要素が存在している。彼らはあまりにも長く自分自身の願いや、自分自身の楽しみ、また都合に相談してきたので、他人が自分たちに対して権利があると感じることがない。彼らの思想、計画、努力は自分自身のためである。彼らは自己のために生きている。そして、私欲のない慈善を培わない。もし、これを働かせるならば、それが他人の益のために生きることが自分たちの喜びとなるまで増し加わり、強められるのである。この利己心を見極め、克服しなければならない。なぜなら、これは神の御目に嘆かわしい罪だからである。彼らはもつと人類のために特別な関心を働かせる必要がある。そして、こうするうちに、彼らは自分の魂をもつと近くキリストとの交わりのうちに入れ、このお方の霊を吹き込まれるのである。そして、彼らがこのお方にとても強くしっかりとつき、何ものも彼らをこのお方の愛から引き離すことはできなくなるのである。(ビュー・アンド・ワールド 1886 年 7 月 13 日)

少しもうらやましくない人の経験というのは、自分の同情心を自分自身の心の中に閉じ込めてしまう人の経験である。人生の中で最上のものを引き出し、もつとも真実な満足感を感じる人たちというのは、与えるために受ける人たちである。自己のために生きる人はいつも欠乏している。なぜなら、彼らは決して満足しないからである。自分自身の利己的な心に自分たちの同情心を閉じ込めてしまうところにキリスト教はない。わたしたちは、他人の生涯に明るさと祝福をもたらさなければならない。主は、わたしたちをご自分の祝福を伝達するための水路としてお選びになった。(原稿 99, 1902 年)

地はよろめき、仮小屋のようにゆり動く時が近づいている。しかし、神の働きの人の思想、目的、行いは、今は見られなくても、最後の報復と報いの大いなる日には現れるのである。今は忘れられている事柄がそのときには証人のように、是とするか、否とするかのいずれかのために現れる。

愛、礼節、自己犠牲、これらは決して失われることはない。神に選ばれた者たちが死すべき者から、不死の者に変えられるとき、彼らのいつくしみの言葉と行いは明らかにされ、そして永遠にわたって保存されるのである。無私の奉仕は、それがどんなに小さく単純なものであっても、決して永遠に失われることはない。キリストの着せられた義の功績を通して、そのような言葉と行為の芳香は永遠に保たれるのである。(ビュー・アンド・ワールド 1904 年 3 月 10 日)

他人のために生きる

「それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである。」(マタイ 20:28)

わたしたちは自分自身のために生きるべきではない。キリストは他の人々のために生きるために、この世に來られた。すなわち仕えられるためではなく、仕えるためであった。もし、あなたがこのお方が生きられたように生きるよう奮闘するならば、あなたは世に対して、「見よ、カルバリーの人を」と言っているのである。教えと模範によって、あなたは他の人々を義の道へと導いているのである。(原稿 11, 1885 年)

もっとも広範にわたって犯されており、わたしたちを神から引き離し、これほどまでに伝染性の霊的な混乱を引き起こしている罪というのは、利己心である。自己否定がない限り、主に戻れる者はだれもない。自分自身について、わたしたちは何もすることができない。しかし、神がわたしたちを強めてくださることによって、わたしたちは他人に対して善を行うために生きることができる。そして、このようにすることによって、利己心の悪を遠ざけることができる。わたしたちは有用で、無私の生涯のうちに、すべてを神に捧げたいという自分の願いを表すために異郷の地に行く必要はない。わたしたちは家庭の輪の中で、教会で、わたしたちが交わり、共に仕事をする人々の間で、そのようにすべきである。日常生活の歩みの中で正しいのは、自己が否定され、いつも二の次にされているところである。

パウロは「わたしは日々死んでいるのである」と言うことができた(コリント第一 15:31)。わたしたちを勝利者とするのは、生活上の小さな取引において、日々自己に死ぬことである。わたしたちは他人に善をなすことを望んで、自己を忘れるべきである。多くの者は、他人に対する愛が決定的に欠乏している。忠実に自分の義務を行う代わりに、彼らはむしろ自分自身の楽しみを追い求めている。

神は明確に、ご自分に従うすべての者に、自分の感化力と財産をもって他人を祝福するという義務を命じておられる。……他人のためになすことによって、心地よい満足を味わうことができ、十分な報いとなる内なる平安を経験するのである。他人に善をなすという気高く、高尚な願いによって動かされるとき、彼らは人生の多種多様な義務を忠実に遂行することに真の幸福を見出すのである。これは地上の報い以上のものをもたらす。なぜなら、すべてが忠実で、利己心のない義務の遂行は天使たちに認められ、命の記録の書のうちに輝くからである。天には、自己を考える者は一人もないし、また自分自身の楽しみを求める者もない。かえって、すべての者が純潔で真実な愛から、自分たちの周りにいる天の住民たちの幸福を求めるのである。もし、わたしたちが新しくされた地において、天の社会を享受したいと望むのであれば、わたしたちはこの地で天の原則によって統治されなければならない。(教会への証 2 巻 132, 133)

8月15日

愛という推進力

「なぜら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。」(コリント第二 5:14)

「このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である」(コリント第一 13:13)。キリストの生涯のうちに、この愛が完全に表現された。このお方は罪と墮落のうちにいるわたしたちを愛してくださいました。このお方は過ちを犯しているこの地のむすこ娘を引き上げるために苦悩の深さの極みにまで来られた。このお方の忍耐は倦むことを知らず、このお方の熱心が衰えることはなかった。憐れみの波は、誇り高く、強情な、忘恩の心に打ち返されたが、いつもさらに強い愛の潮が返っていったのであった。

キリストの愛に強く迫られた者は、自分の人間同胞のところへ、無力な者を助け、落胆した者を励まし、罪人に神の子らに対する神の理想を指し示し、彼らをこの理想に到達させることができる唯一のお方へと導くために出て行く。……

わたしたちは、決して冷たく、同情心のない者となってはならない。特に貧しい者を取り扱う際にはそうである。礼節、共感、同情心がすべての人に示されなければならない。裕福な者に対する偏愛は神にとって不快なものである。イエスの困窮している子らが軽んじられるとき、イエスが軽んじられているのである。彼らはこの世の財産には富んでいないが、彼らはこのお方の愛の心に愛しい者たちである。神は身分の区別をお認めにならない。このお方にあっては身分制度はない。このお方の御目には、人は良くても悪くても単に人である。最後の清算の日には、地位、身分、あるいは富は、だれ一人として髪の毛一筋ほどの違いも生じさせることはない。すべてをご覧になる神によって、人は純潔と、高潔さと、キリストに対する愛のうちにどのような者であったかによって裁かれるのである。……

キリストは、福音はすべての貧しい人に宣べ伝えられなければならないと宣言された。神の真理は、それが困窮し欠乏している者に伝えられるときほどそのすばらしさをまとうことは他にない。そのとき、福音の光が貧しい農夫のあばら屋や労働者の粗末な小屋を照らして、その最も輝かしい明るさのうちに輝き出る。神の天使がそこにいて、彼らの存在がパンの耳やコップの水を晩餐にする。世になおざりにされ、捨てられてきた人々が、いと高き者のむすこ、娘として起こされるのである。地が与え得るいかなる地位よりも上に引き上げられ、彼らはキリスト・イエスのうちに天国で座する。彼らは地上の宝は持っていないかもしれないが、高価な真珠を見出したのである。(ビュー・アソッド・ヘアルド 1910年7月21日)

キリストのうちに隠された自己

「わが魂は主によって誇る。苦しむ者はこれを聞いて喜ぶであらう。」(詩篇 34:2)

ヨハネ・チェーン博士、彼はその告白において高い地位に上っている間も、神に対する自分の義務を忘れることはなかった。彼はかつて友に、「あなたはわたしの思いの状態を知りたいと思うかもしれない。わたしはわたしの忙しい生涯の一つの行為さえも、聖なる神の御目に耐えるものがないという思いでちりのうちにへりくだる。しかし、わたしが贖い主の『わたしの許に來なさい』との招きと、そしてわたしがこの招きを受け入れたことを思うとき、そしてそれにもまさって、わたしの良心がわたしは万事につけ自分の意志を、神のみ旨に一致させることを心から望んでいたということを証することを思うとき、わたしには平安がある。わたしには、約束された平安、そのうちに偽りの見出されなかったお方から約束された平安がある」と書いた。

彼の死の前に、この著名な医師は自分の体が横たえられる場所の近くに円柱を立てるように命じた。そこには、永遠からの声として次の聖句が刻まれるのであった。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ 3:16)。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのものにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」(マタイ 11:28)。「すべての人と相和しました、自らきよくなるように努めなさい。きよくならなければ、だれも主を見ることはできない」(ヘブル 12:14)。

そして、チェーン博士がこのように、墓からでさえ、罪人を救い主に招き、栄光を帰そうと努力しているとき、彼はその円柱からさえもまったく自分自身の名を隠したのであった。彼はそばを過ぎ行く人に注意深く次のように言うのであった。「下に横たわっている者の名や職業や年齢はたいしたことではありません。しかし、あなたにとって重要なのは、神の恵みによってわたしが主イエスを唯一の罪人の救い主として眺めるようになったこと、そして、このイエスを眺めることによってわたしの魂に平安がもたらされたことを知ることです。」「神に祈ります。神に、あなたが福音を教えていただけるように、そして、神が真の知恵の唯一の教師である聖霊を、神に求める人々に与えてくださることを祈ります。」

この記念碑はすべてのものの注意を神に向けるようにそして彼らが人を見なくなるように設計された。この人はキリストのみ働きに何の非難ももたらさなかった。(医事伝 51, 52)

8月17日

柔和という尊い特質

「柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう。」(マタイ 5:5)

柔和は尊いクリスチャンの特質である。キリストの柔和とへりくだりは、キリストのくびきを負うことによってのみ学ぶことができる。……そのくびきとは完全な服従を意味する。

天の宇宙は、心の柔和とへりくだりがいないことを見ている。自己称揚と膨れ上がる尊大な思いとが、人間を自分の評価のうちに非常に大きなものとするために、救い主の必要を感じず、キリストのくびきを負う必要を感じさせない。しかし、一人一人の魂への招きは、「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」である(マタイ 11:29)。

神の御力はわたしたちがそれを求めることを待っている。……純粋な霊的力は朝ごとに新鮮で、夕ごとに新しい。それは人を世的な野心から引き上げ、すべての利己心を魂から追放する。……

利己心と食欲が多くの生涯を損なっている。……イエスを眺めるものたちは自己を見失う。信仰の目によって、彼らは見えないお方を見るのである。彼らは王をその麗しさのうちに、そしてはるかかなたの地を見るのである。彼らは節約を実践し、正義と義を表し、自己を高める代わりに自己を抑制する。……

キリストが命じておられる服従、すなわち真理をその聖化する力のうちに認め、主のみ言葉に震える意志の自己放棄は、聖霊の働きによってなされる。全存在、心、魂そして品性の変化がなくてはならない。……犠牲の祭壇において、そして神の御手からのみ、利己的で強欲な人間は、自分自身の無能さを明らかにし、彼をキリストのくびきに服して、このお方の柔和とへりくだりを学ぶように導く天の光を受けるのである。

学ぶ者として、わたしたちは定められた場所で神にお会いする必要がある。そのとき、キリストはわたしたちに聖霊の導きの下にわたしたちを置いてくださる。聖霊はわたしたちをあらゆる真理に導き、わたしたちの自己尊大をキリストへの服従と取り替えてくださる。聖霊はキリストの唇より出たとおりこのお方の事柄を取り上げて、それらを従順な魂のところへ生きた力とともに伝える。こうして、わたしたちは真理の創始者の完全な特徴を帯びるのである。(原稿 94, 1899 年)

人の価値の測り

「人よ、彼はさきによい事のなんであるかをあなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。」(ミカ 6:8)

その人がどういう存在であるかということには、その人の言葉よりも大きな感化力がある。静かで一貫性があり、信心深い生活は、すべての人に知られ、読まれている生きた手紙である。聖潔は外からのものでも、着せられたりするものでもない。それは内側から輝き出るものである。もし、信心、純潔、柔和、へりくだり、そして高潔さが心に宿るならば、それらは、品性のうちに輝き出る。そして、そのような品性には満ち溢れる力がある。道具ではなく、その御手のうちで器を用いられる偉大な働き人が栄光を受けられるのである。救い主の愛で満たされた心は、日ごとに与えるための恵みを受ける。生活は真理の贖う力を現す。

イエスに関して証されていることは、「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」というものであった(ヨハネ 7:46)。キリストがだれも語ったことがないように語られたのは、このお方がだれも生きたことがないように生きておられたからである。もし、このお方がご自分がされたように生きておられなかったならば、ご自分が語ったように語ることはおできにならなかった。このお方の言葉には説得力があった。なぜなら、それは純真で聖なる心からでたものであり、愛と同情、慈善と真理を担っていたからである。……

羊飼いたちがベツレヘムで自分たちの群れを見張っていたとき、天からの御使が彼らを訪れた。同様に今日も、神のための人間の働き人が自分の召された働きに従うとき、天使が傍らに立ち、彼の言葉を聞き、彼がどのような方法で働いているかを注目するのである。……もし、彼が絶えず神に信頼するならば、これらの天使の見張り人たちは彼の働きが衰退するのを許さない。彼らは神の働きが危険にさらされるような方向に彼の働きがそれていくのを許さない。主はご自分の民の手からなされる働きをご覧になっている。このお方はすべての働きの一つ一つをそれがどんな種類のものか調べるために、裁かれるのである。

純粹で汚されていない宗教はそれ自体を擁護する。それは、それを受けるすべての人の品性を変える。彼らの有用性を向上させ、接触するすべてのものを美しくする。……人の価値はその人の占める責任の地位によって測られるのではなく、彼が表すキリストのような精神によって測られるのである。救い主が心の中に宿られるとき、働きは神が触れた特徴を帯びるのである。自己は現れない。キリストがまったく美しいお方として表されるのである。(手紙 187, 1902 年)

8月19日

憐れみ深い者のための憐れみ

「あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。」(ルカ 6:36)

憐れみは人間が神と共に分かちことのできる特質である。キリストがなされたように、人間は、神の御腕をつかみ、神の御力との交流のうちにいることができる。わたしたちにわたしたちの人間同胞のためになすべき憐れみの奉仕が与えられている。この奉仕を行うことによって、わたしたちは神と共に働いているのである。わたしたちはそのとき、天におられるわたしたちの御父が憐れみ深いように、憐れみ深い者となるのである。

神は「わたしが好むのは、あわれみであつて、いけにえではない」と仰せになる(マタイ 9:13)。あわれみは親切で、同情深い。神のあわれみと愛は魂を純潔にし、心を麗しくし、そして生活を利己心から清める。憐れみは、神の愛の現れであり、神と一致して天の光を自分たちの同胞である被造物の道に反射することによって神に仕える者たちによって示される。多くの人々の状態は、本物の憐れみの働きを求めている。クリスチャンは他の人々を取り扱う際に、憐れみと愛の原則によって支配されるべきである。彼らは悲嘆にくれている同胞を助けるためにすべての好機を活用しなければならない。……

キリストのような品性を完成したいと望む者たちは、いつも、キリストが人類を贖うために残酷な死を遂げられた十字架を視野に入れていよう。わたしたちの犠牲のために救い主に無限の犠牲を払わせたのと同じ憐れみ深い精神を、いつも抱いていなさい。……

憐れみ深い者たちは、「あわれみを受けるであろう」(マタイ 5:7)。「物惜しめない者は富み、人を潤す者は自分も潤される」(箴言 11:25)。同情深い精神を持つ者のためには、すばらしい平安がある。他人の益のために自己を忘れて奉仕する生涯にある祝福された満足がある。

自分の生涯を神の子らへの奉仕のために捧げた者は、全宇宙の資源を思いのままになさる神とつながっている。不変の約束という黄金の鎖によって、彼の命は神の命と結び付けられている。主は彼の苦悩と欠乏のときにも、彼を失望させたりはなさらない。「わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいつさいの必要を、キリスト・イエスにあつて満たして下さるであろう」(ピリピ 4:19)。そして最後の欠乏のときには、憐れみ深い者は、同情深い救い主のあわれみのうちに避け所を見出し、このお方によって永遠の住まいに受け入れられるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1902年5月21日)

祝福の波

「あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味が取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである。」(マタイ 5:13)

これらの言葉はわずかの貧しい、つつましい漁師に語られた。祭司やラビたちがその聴衆の集まりの中にいたが、これらの人々に語られたのではなかった。……これらのキリストの言葉によって、わたしたちは人間の感化力の価値が何から成っているか、幾分理解するのである。それはキリストの感化力と共に働き、キリストが掲げられたところで掲げ、正しい原則を与えて世の墮落の進展をとどめることである。それはキリストだけが与えることのできる恵みを放つ。それは、熱心な信仰と愛と結びついた純潔な模範の力によって、他の人々の生活と品性を引き上げ、芳しくするのである。神の民は世において、改革し、保存する力を働かせなければならない。彼らは破壊し、墮落させる悪の感化力に対抗して働かなければならない。(レビュー・アンド・ヘラルド 1899年8月22日)

あなたが人生を歩むとき、その運命が安逸とはかけ離れた人々に出会うであろう。将来に何の改善も望めない骨折りと貧困が彼らの重荷を非常につらくしている。……心労にやつれ、圧倒されて、彼らはどこに休息を見出せばよいのかわからずにいる。彼らを助ける働きに、あなたの全心を注ぎなさい。神の子らが自分たちで閉じこもっているのは、神のご目的ではない。あなたがたのためと同様に、彼らのためにも、キリストが死なれたことを覚えていなさい。彼らに助けの手を差し伸べなさい。……疑いや失望の言葉を一言も出さないことを常としなさい。あなたは彼らの生活を明るくするために、……聖なる励ましの言葉によって多くのことができる。(見張り人 1908年5月5日)

イエスのもつとも卑しく、貧しい弟子も他人に対する祝福となることができる。彼らは自分たちが何か特別な善をなしているとは気づかないかもしれないが、彼らの無意識の感化力によって、彼らは広がり深くなっていく祝福の波を起こすことができる。そしてその祝福された結果は終わりの報いの日まで、決して彼らに分からないかもしれない。彼らは、成功を案じて疲れるようにとは要求されていない。彼らはただ静かに出て行って、忠実に神の御摂理が任命する働きを行うだけである。そのとき、彼らの生涯は空しいものとはならない。彼ら自身の魂はますますキリストに似たものへと成長する。彼らはこの生涯において、神と共に働く働き人であり、こうして、来るべき生涯のより高尚な働きとかげりのない喜びにふさわしい者となっていくのである(同上)

8月21日

砂漠の中の水流

「正しい者はなつめやしの木のように栄え、レバノンの香柏のように育ちます。」
(詩篇 92:12)

熱帯の太陽光線から身を守る陰もなく、砂漠の熱い砂の上を苦労して歩いている疲れた旅人を見なさい。彼の水は底をつき、彼の燃えるような渴きを満たすものは何もない。彼の舌は腫れ上がってきた。彼は酔いどれのようによろめく。いよいよ死ぬと思うときに、家庭や友人の幻影が彼の前を過ぎる。突然、彼はかなたに、荒涼とした砂の荒地に、緑色で豊かなやしの木が立っているのを目にする。希望が彼の鼓動を早める。彼はやしの木に命と清新さとを与えているものが彼の焼けた血を冷まし、彼に新たな命を与えることを知って、進んでいく。

砂漠の中のやしの木のようなもの、すなわち、気絶しそうな旅人の案内者であり、慰めであるもの、クリスチャンも世にあつてそのようなものでなければならぬ。彼は、不安に満ちた、罪の砂漠で今にも死にそうな弱った魂を、生ける水に導かなければならない。彼は自分の同胞に、すべての人を「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい」と招かれるお方を指し示さなければならない。

空は黄銅のようで、焼ける砂はやしの木の根に打ちつけ、その幹の周りに積まるかもしれない。しかし、木は生き続け、生き生きとし、力強い。砂をどけると、あなたはその命の秘訣を発見する。その根は地に隠された水の深みにまで下ろされているのである。

クリスチャンもこのようである。彼の命はキリストと共に神のうちに隠されている。イエスは彼にとって永遠の命へと湧きあふれている水の井戸である。彼の信仰は、やしの木の小根のように、見えるものの下まで貫き、命の泉から命を引いている。そして世の墮落のただ中で、彼は神に対して真実で忠実なのである。キリストの義の芳しい感化力が彼を取り囲んでいる。……

神と共に歩み、働く男女の顔は、天の平安を表す。彼らは天の雰囲気の中で囲まれている。これらの魂のために神の王国は始まった。彼らはキリストの喜び、すなわち人類にとって祝福となる喜びを持っている。彼らには主人の御用のために受け入れられるという榮譽がある。彼らはこのお方の御名によって、このお方の働きをするようにと信任されているのである。(見張り人 1908 年 5 月 5 日)

神はへりくだるものを尊ばれる

「おおそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」(ルカ 14:11)

神は自らを神の御前にへりくだらせる者を尊ばれる。自分が約束の地に導いていた民が不平を鳴らし、つぶやくのに落胆して、モーセはご臨在の保証を求めて嘆願した。……そのとき主は、「わたし自身が一緒に行くであろう。そしてあなたに安息を与えるであろう」と仰せになった(出エジプト 33:14)。

神のご臨在の保証に勇気を得て、モーセはさらに近づき思い切ってさらなる祝福を求めた。「どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください」と彼は言った(同 18 節)。あなたは神がモーセを僭越のために譴責されたと思うであろうか。否、まったくそうではなかった。モーセは無意味な好奇心から、この願いをしたのではなかった。彼には一つの目的があった。彼は自分自身の力では、神に受け入れられる働きができないことを悟った。彼はもし、自分が神の栄光をはっきりと見ることができるならば、彼が自分の重要な使命において、自分自身の力によらず、主にして全能者なる神の力によって前進することができることを知っていた。彼の全魂は神を追い求めていた。彼はこのお方のことをもっと知りたいと切望していた。それは彼がすべての危急や困惑のときに、神のご臨在を近くに感じることができるためであった。モーセに神の栄光を見せてくださいと求めさせたのは、利己心ではなかった。彼の唯一の目的は、自分の造り主にもっと誉れを帰したいという願いであった。

神は心の思想と意図とをご存知である。そして、このお方はご自分の忠実な僕の願いを引き起こした動機を理解された。……

「主は彼の前を過ぎて宣べられた。『主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神』」(出エジプト 34:6)。

モーセは正真正銘の人間であった。そして、主は彼にご自分の栄光を示されることによって、彼を尊ばれた。このお方は、モーセのように完全な心をもってご自分に仕えるすべての者を同様に尊ばれるのである。このお方はご自分の僕に、自分自身の力で働くようにとは要求なされない。このお方はへりくだった悔いた精神を持つ者にご自分の知恵を与えてくださる。キリストの義は彼らの前に行き、主の栄光は彼らのしんがりとなる。この世の何ものも、このように神との緊密なつながりによって尊ばれている者を損なうことはできない。地は揺れ、世の支柱は彼らの下で震えるかもしれないが、彼らは恐れを感じる必要がない。(ビュー・アード・ハルド 1897 年 5 月 11 日)

8月23日

小事に忠実

「これらの者は陶器を造る人で、ネタイムおよびゲデラに住み、王の用をするため、王とともに、そこに住んだ。」(歴代志上 4:23)

主は若いクリスチャンの思いが訓練され発達させられるようにと計画しておられる。それは、若い兵士が最高の努力をすることができるためである。しかし、これはあなたが、あなたの訓練と育成のためのすべての好機と特権を自らのものとして、天の知的存在者たちと協力するときのみ可能である。主はあなたが小事に忠実であり、あなたが小さくてつまらないように見える日ごとの義務を、徹底的に、自分の能力の最善を尽くして、行うようにと望んでおられる。あなたは自分の手にゆだねられた働きを不注意に行いながら満足しているとき、危険にさらされているのである。仮にもなす価値があることは、立派になす価値があるということを感じていなさい。

サタンはいつも神のために働き人になろうとする者を誘惑しようとそばにいる。彼に、だれにもそれが怠慢になされたとは気づかれないのだから、その働きをなおざりにしても、大したことではないとほめかす。あなたがたのうち一人として、この欺瞞に欺かれることのないようにしなさい。なぜなら、あなた自身があなたの義務を果たしていないことを知っており、自分自身に対する敬意を失い、自分が信じられなくなってしまうからである。あなたは、自分が神のために最善を尽くしていないことを知り、神があなたの怠慢をすべて理解しておられることを悟る。たるんではならない。なぜなら、習慣はあなたの上にのしかかっていき、あなたの外部の事柄においてだけでなく、あなたの霊的生活においてさえ、あらわれるようになるからである。表面的な仕事をすることによって、あなたはこの生涯の義務のためにも、次の生涯の喜びのためにもまったくふさわしくないものとなる訓練を受けることになる。(ユース・イン・ストラクター 1892 年 9 月 29 日)

神がすべてのクリスチャンのために持つておられる計画には、不必要なものはない。各々、日ごとの経験の中で学ぶべき教訓がある。忍耐強くあり、どんなに卑しいものであっても、自分に与えられた働きを忠実に行いなさい。静かにあなたの仕事に取り掛かり、力を求めて神により頼みなさい。不安をもって明日を見てはならない。今日、あなたの時間をまさに最高の説明責任のために用いなさい。今日、あなたの光を、小さな義務を遂行することにおいてさえ、キリストのために輝かせなさい。……今日の義務を忠実に行うことは、あなたを明日の働きに新たな勇気をもって取り掛かる備えをさせ、「主は今に至るまでわれわれを助けられた」と言うのである！(サムエル上 7:12)。神のみ前にいつも民兵として立ちなさい。(手紙 1, 1904 年)

確固たる高潔さ

「あなたはわたしの全きによって、わたしをささえ、とこしえにみ前に置かれます。」
(詩篇 41:12)

生涯のすべての行為において、真のクリスチャンは周囲の人が自分をどういう者であるか考えてほしいと望むとおりの者である。彼は真理と正直さに導かれる。彼はたくらまない。だから、彼には繕うべき体裁がない。彼は批判されるかもしれないし、試されるかもしれない。しかし、すべてを通して、彼の確固たる高潔さが純金のように輝き出るのである。彼は自分に関係のあるすべての人にとって友であり、後援者である。そして、彼の同胞は、彼に信頼を置くのである。なぜなら、彼は信頼に足るからである。彼は自分の収穫を刈り入れるために働き人を雇うであろうか。彼は、働き人が苦勞してやっと手に入れた金銭を差し控えたりはしない。彼にはすぐに使う予定のない財産があるであろうか。彼は恵まれない自分の兄弟の欠乏を救済する。彼は自分の隣人の不幸な状況を利用して自分の所有を増大させようとは思わない。彼は自分が売ったものの正当な代価だけを受け入れる。もし自分の売った商品に欠陥があれば、彼はたとえそうすることによって自分自身の金銭上の利益に相反して働いているように見えたとしても、買った人にそれを正直に言うのである。……

サタンは、確固とした高潔さのある人の生涯がどれほど善に対して力となるか、いやと言うほど知っている。そして、彼は人がそのような生涯を歩むのを妨害するために熱心な努力をなす。彼は魅惑的な誘惑をもって彼らのところにやってきて、ただ義の原則を明け渡しさえすれば、彼らに富や地位、世的な栄誉を約束するという。そして、彼は大いに成功しているのである。……失敗してきた多くの人の悲しい歴史から、わたしたちは繁栄の危険を学ぶ。もっとも大きな危険のうちにいるのは、自分たちの財産を失った者ではなく、富を獲得してきた者である。……祈りはしばしば苦しんでいる男女のために要請されるが、これは正しいことである。しかし、繁栄のうちにいる者ももっと神の僕を祈りを必要としている。なぜなら、彼らは救いを失うという、より大きな危険のうちにいるからである。へりくだりの谷のうちに、人は神を崇拜し、このお方に信頼して、安全に歩むのである。誉めそやされるのが聞こえる高い山頂にいるとき、彼らは上よりの特別な助けを必要としている。……

真の宗教は実験ではない。それは実際にキリストを模倣することである。神はすべての人について個人的な報告書をつけておられ、その人の働きの実際的な結果によってその人を試しておられる。まもなく、「あなたの家令職の会計報告を出しなさい」との召集が聞かれるのである。(見張り人 1908 年 1 月 26 日)

8月25日

大事にするべき恵み

「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。」(ガラテヤ 5:22, 23)

個々にわたしたちがそのために労しているそのものが挙げられている。「しかし、御霊の実は、愛」である。もし、わたしたちが自分の魂にキリストの愛を持っているならば、自然の結果としてわたしたちは他の恵み、すなわち喜び、平和、寛容、慈愛、善意、信仰、柔和、自制をすべて持つようになる。そして、「これらを否定する律法はない」。神の律法はこれらの恵みを持っている者たちを責めて、くびきにつなぐことはしない。なぜなら、彼らは神の律法の要求に従っているからである。彼らは、律法を守る者であり、……律法のくびきの下にはいない。……

わたしたちは愛を持たなければならない。そしてこれと結びついて、喜び、平和、寛容、忍耐を持たなければならない。わたしたちは世の不穏状態、彼らの不満状態を見る。彼らは自分たちの持っていない何かを求めている。彼らは興奮を保つ何か、あるいは何か娯楽を欲している。しかしクリスチャンにとっては、喜びがあり、平和があり、寛容、慈愛、柔和、寛大、そして忍耐がある。そして神の聖霊の天来の恵みを抱いて、これらのものに対してわたしたちは自分の心の戸を開きたいのである。……だれも他の人に代わってそれを持つことはできない。あなたが働きにとりかかって、御霊の恵みを自分のものとするかもしれないが、それがわたしのための解決とはならない。……各々、個別に働きをなし、個人的な努力を通して、心に神の恵みを持つことを決心しなければならない。わたしがあなたのために品性を形成することはできないし、またあなたがわたしのためにそうすることもできない。それは、老若問わず、各個人に負わされた責任である。(レビュー・アソド・ヘラルド 1887年1月4日)

キリストは「わたしは人を精金よりも、オフルのこがねよりも尊いものとする」と仰せになる(イザヤ 13:12 英語訳)。どのようにであろうか。御霊の恵み、すなわち愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、柔和、信仰を培うことによってである。わたしたちはエホバの強い御腕をつかむ生きた信仰を欲している。……わたしたちはみな、心に神の御霊の恵みを必要としている。(同上 1886年12月2日)

キリストの愛が心に秘められるとき、それは芳香のように隠すことができない。それは品性を通して聖なる感化力をおよぼし、すべての人に明らかにされる。「栄光の望み」であられるキリストがうちに形造られるのである。(同上 1887年1月4日)

軽率さのない快活さ

「主の祝福は人を富ませる、主はこれになんの悲しみをも加えない。」(箴言 10:22)

クリスチャンの快活さは、自分たちが神の子であるゆえに享受している大きな祝福を思っ、創造される。……わたしたちが神に対して和解を得ているという確信による思いと魂の宮の快活な啓発、キリストによって永遠の命について抱いている希望、そして他人を祝福する楽しみは、悲しみを伴わない喜びである。

表面的で安っぽい経験から起こる冷やか、浮かれ騒ぎ、軽率、そして精神の虚しさにくれる者たちには、神の愛と真理の信念にある希望と喜びのために真の確固とした土台がない。目の回るような、不注意で、うつついた、陽気な精神というのは、パウロがキリストに従う者が持つようにと切望した喜びではない。この種類の人々は軽薄で度を越えた軽率さのうちに自分たちの時間を過ごす。時間は過ぎていき、終わりは近い。しかし、彼らは自分のために自分たちが永遠の命をつかむことができるように来るべき時に備えて良い基礎を築いていない。わたしたちは反省を消散させてしまい、考慮する時間を残さず、そして神の聖霊を悲しませる軽々しくて安っぽい会話の習慣をつけ、わたしたちを天と天の事柄を瞑想するのにふさわしくないものとしてしまう浮かれ騒ぎを促進する必要はない。これらの人々は自分たちが天の高尚な喜びのために準備していないために、悲しみ後悔することになる人々である。彼らは神の御前から追放されてしまう。(手紙 28, 1897 年)

わたしたちを本当に幸せにするのは、わたしたちの周りに何があるかではなく、わたしたちのうちに何があるかであり、わたしたちが何を持っているかではなく、わたしたちがどういう者であるかである。わたしたちは自分自身の心の祭壇に快活な火を欲している。そのとき、わたしたちはすべての者を幸せで快活な光のうちに見るのである。わたしたちは、キリストの平安を持つことができる。……もし、わたしたちが、自分の地上の父親に単純に信頼する子供のように従順で神に信頼する者であれば、わたしたちは平和を、世が与えるものではなく、イエスが与えてくださる平和を持つのである。生涯、この生涯は、もしわたしたちが花を集めて、アザミやいばらは触れずにいるならば、もっと明るくなる。(同上 27, 1886 年)

天の喜びをあなたの生活に持ち込みなさい。天の光は、その美しい魅力のうちに、昇天のために準備している者たちから反射して、天の家族に喜びをもたらすのである。(手紙 131, 1904 年)

8月27日

喜んで忍び

「更にまた祈るのは、あなたがたが、神の栄光の勢いにしがたって賜わるすべての力によって強くされ、何事も喜んで耐えかつ忍び。」(コロサイ 1:11)

「すべての力によって強くされ」。これは、他人を害し傷つけ、またわたしたちが言ったことを後になって思い出すときにわたしたちに恥じさせて、だれよりもわたしたちを傷つける性急な言葉を語るための力ではない。

「喜んで忍び」。あなたがどこにいても、あなたはじらされたり、非難があなたを襲ったりすることがあろう。もしわたしがわたしに対して言われてきたことを千分の一でも調べ上げなければならないとしたら、わたしには他のことをする時間が一切ないであろう。わたしは「神はこのことについてすべてご存知である。そしてわたしはこのお方にこれをお任せする」と言ってきた。わたしは他人がわたしに関して何と言おうがまったく意に介さない。……もし、わたしが自制を失い、怒りのうちに言葉を発するならば、わたしはそうすることによって、人々にわたしを非難する人々の言い分は正しいという理由を与えてしまうことになる。……

わたしたちは決して自制を失ってはならない。いつも完全な型であられるお方を目の前においていよう。短気に、あるいはいらだって語ったり、怒りを感じたりすることは、例えばそれをわたしたちが行ったり、語ったりしなかったとしても罪である。わたしたちはキリストを正しく代表して、価値ある歩みをしなければならぬ。怒りの言葉を語ることは、火打石を火打石に打ちつけるようなものである。それはすぐに怒りの感情をたきつける。決して栗のイガのようにってはならない。……

自己が制されていないために、他人が短気にいらだち文句を言っているとき、シオンの歌を何か歌いはじめなさい。キリストが大工の作業台で働いておられるときに、他の人々がときにキリストを取り囲み、何とか短気を引き起こそうと試した。しかし、このお方は何かの美しい詩篇を歌い始められ、彼らもそこにある聖霊の力によって讃美に感化され、知らないうちにこのお方の歌に加わっていたのであった。

神はわたしたちが苦難と苦悩のときに忍耐強く、このお方がいつでもわたしたちのために働いてくださることを信じて、このお方の無限の愛の偉大なみ腕のうちに安んじて満足しているようにと望んでおられる。主にあって喜んでいることはわたしたちの特権である。もっとこのお方を讃美しよう。わたしたちの喜びによって、わたしたちは自分の生涯がキリストとともに神のうちに隠され、このお方のうちにわたしたちが最も祝福された交わりを見出し、このお方の恵みを通して、わたしたちが天と生きたつながりを持っていることを明らかにするのである。(原稿 102, 1901 年)

失望の余地がない

「光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者とならせて下さった父なる神に、感謝することである。神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。」(コロサイ 1:12, 13)

この言葉は何と満ち足りていることであろう！もし、あなたがそれを図ろうとするなら、あなたは、これらの言葉の中に、計り知れない意味の深さがあることを発見するであろう。わたしたちは今、キリストがご自分を愛する者のために備えに行かれた住まいに住むのにふさわしい者にされつつある。

「わたしたちをやみの力から救い出して」。もし、これが真実ならば、自分たちの周りに闇の衣を巻きつけて、失望や不信や疑いを語ることに對して、わたしたちに何の言い訳があろう。……

もし、わたしが暗い雲を見るならば、わたしの働きにおいて問題と困惑がわたしに訪れるであろう。わたしは何も他にできなくなってしまう。しかし、わたしは雲のかなかに光と栄光があることを知っている。時にわたしは金銭的な難局に直面することがある。しかし、わたしは金銭に對して悩まない。神はわたしの問題を引き受けてくださる。わたしはなしうることをすべてなす。そうすると主がわたしが金銭を持つのに最善だと思われるときに、それをわたしに送ってくださるのである。

あなたが信仰について語れば語るほど、あなたは信仰をますます持つようになる。あなたが自分の試練を人に語りあなたが渴望している同情を得るためにそれらをつぶさに語って失望をくよくよ考えれば考えるほど、あなたにはますます失望と試練とがあるのである。なぜ、自分が避けられないことに對して嘆き悲しむのか。……

わたしたちは将来、不死の生涯のために品性を築いている。この世の学校から、高等學級である天の学校へと進級するために準備している。しかし、人は困難と格闘するとき、自分自身の有限な力に頼ってはならない。信仰のうちに、彼は天のすべての資源が、勝利するために思いのままであることを信じて神を見上げなければならない。千々万々の天の御使たちが救いを受け継ぐべき人々に奉仕しているのである。(原稿 102, 1901 年)

神は、わたしたちに地上に向かう魂の窓を閉じ、天に向かって開くように招いておられる。それはそのお方が天の輝かしい栄光によってわたしたちの心を溢れさせて下さるためである。(同上)

8月29日

わたしたちの栄光の働き

「主にむかって歌い、そのみ名をほめよ。日ごとにその救を宣べ伝えよ。もろもろの国の中にその栄光をあらわし、もろもろの民の中にそのくすしみわざをあらわせ。」(詩篇 96:2, 3)

救いの計画のうちに役割を担うことにおいて、わたしたちに委ねられた大いなる栄光に満ちた働きとは、驚くほど高尚で高められたものである。わたしたちはその功績を計ることはできない。わたしたちは信仰によって歩まなければならない。そしてわたしたちが可能性を正しく評価しようと奮闘し、救いの計画の広大さを悟るとき、使徒パウロとともに、「すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知」ることができるようにと祈ることはわたしたちの特権である(エペソ 3:18, 19)。カルバリーの人を掲げなさい。眺めることによってあなたが同じ姿に変えられるまで思い、このお方のご品性の麗しさを思い続けるようにしなさい。祈りと信仰の生涯はわたしたちにこのお方への讃美を語らせ、このお方の力を物語らせる。……

本物の改心は信仰と愛のうちにわたしたちの心をついに結びつける。それはわたしたちに、わたしたちの唯一の希望であるお方にわたしたちの信頼を堅くおくことを教える。改心によって、わたしたちは自分の弱さを神の強さに、わたしたちの無知をこのお方の知恵に、わたしたちの無価値さをこのお方の功績に、わたしたちの貧しさをこのお方の無限の富に、わたしたちの無力さをこのお方の永遠の力に結びつけるのである。(手紙 28, 1907 年)

わたしたちは神のみ言葉を探らなければならない。それをわたしたちの一部としなければならない。へりくだりの精神、すなわちキリストの精神は、わたしたちがわたしたちを栄光と徳へと招いてくださったお方を知ることができるように助ける。

もし、わたしたちがなすべきほどに、真理を日常生活に持ち込んでいるならば、わたしたちはますますさらに高く進み、神の啓示に対するますますさらにはっきりとした理解を得ていることであろう。わたしたちは讃美の歌のうちにこのお方を掲げなければならない。詩篇記者を通して、キリストは「わたしはあなたのみ名を兄弟たちに告げ、会衆の中であなたをほめたたえるでしょう」と宣言しておられる(詩篇 22:22)。このお方のみ声は全宇宙の旋律である。制限を知らないこのお方の力、計り知れないこのお方の理解力、人類のための驚くべきこのお方の犠牲が、わたしたちに神の愛を理解させるために助けてくださる。わたしたちは、個人的に魂のうちに宿るキリストを必要としている。わたしたちは真理の御霊が宿ってくださるように、思いと心を開く必要がある。わたしたちは神聖で高尚な真理を持つ者としての自分たちの特権を感謝する必要がある。これがわたしたちにとって何を意味するか考えて見なさい。すなわち、神の相続人であり、キリストと共に相続する者であるということ。(同上)

平安というキリストの遺産

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ 14:27)

主は十字架上の苦しみに向かわれる前に、ご自分の遺言をのこされた。このお方には、弟子たちに残す銀も金も家もなかった。このお方は、地上の財産に関して言えば、貧しいお方であられた。エルサレムにおいてこのお方ほど貧しいものはほとんどいなかった。しかし、このお方はどの地上の君主が自分の臣下たちに与えることができるよりも富んだ賜物をご自分の弟子たちに残された。「わたしは平安をあなたがたに残して行く」。このお方は、……彼らにご自分がこの地上の生涯を送られたあいだ持つておられた平安を残していくと言われた。それは貧困、打撃、そして迫害のさなかにもこのお方と共にあった。それは、このお方のゲッセマネでの苦悩のときにも、残酷な十字架上でもこのお方と共にあるのであった。

この地上における救い主の生涯は、争闘のただ中に生きられたにもかかわらず、平安の生涯であった。……どのようなサタンの怒りの嵐も神との完全な交わりの静けさを妨害することはできなかった。そして、このお方はわたしたちに「わたしの平安をあなたがたに与える」と仰せになる。

キリストをその言葉どおりに信じ、自分の魂をこのお方の守りに、自分の生涯をこのお方のご命令どおりに明け渡す者は、平安と静けさを見出す。イエスが彼らをそのご臨在によって喜ばせるとき、世の何ものも、彼らを悲しませることができない。黙々と従うことに完全な休息があるのである。主は、「あなたは全き平安をもってこころざしの堅固なものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである」と仰せになった(イザヤ 26:3)。

平安を壊すのは自己愛である。自己が生きているあいだは、わたしたちはそれを屈辱や侮辱から守ろうと絶えず構えている。しかし、自己が死ぬと、わたしたちの命はキリストと共に神のうちに隠され、わたしたちは、無視や軽蔑を心に留めなくなる。……

わたしたちが魂にキリストを常客としてお迎えするとき一切の理解を超えた神の平安がわたしたちの心と思いを保つ。これ以外に平安の根拠となるものはない。キリストの恵みは心に受け入れられると、敵意を征服する。それは、争いを鎮め、魂を愛で満たす。神と同胞である人間は平和であり、惨めになることができない。……神と調和している心は、天の平安にあずかり、その祝福された感化をあたりいったいに放射するのである。(見張り人 1908 年 4 月 7 日)

8月31日

イエスに会う備えをする

「そこで、子たちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、彼が現れる時に、確信を持ち、その来臨に際して、みまえに恥じることがないためである。」(ヨハネ第一 2:28)

神をこの地で知ることによってのみ、わたしたちは、このお方が来られたときにこのお方にお会いする準備ができる。……キリストは、その教訓、その力あるわざにおいて神の完全な啓示であられた。このキリストが、靈感を受けた伝道者を通して宣言しておられる。「神を見た者はまだひとりもない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである」(ヨハネ 1:18)。「子を知る者は父のほかにはなく、父を知る者は、子と、父をあらわそうとして子が選んだ者とのほかに、だれもありません」。これらの言葉はキリストのご品性を研究する重要性を示している。キリストを知ることによってのみ、わたしたちは神を知ることができるのである。

わたしたちの代表者として、キリストは、可能な限り最高の地位に立っておられる。神の使命者として世に来られたとき、このお方は御手のうちに神の救いをつかんでおられた。人類すべてがこのお方に任せられた。なぜなら、満ちみちているいっさいの神の徳があったからである。……キリストは御父を十分に表されたので、このお方を連れて行くためにパリサイ人から遣わされた使いは、このお方のご臨在によって魅了されてしまった。……彼らがこのお方の上を包み隠していた神の栄光のやわらかい光を見たとき彼らがこのお方の唇から出る栄光に満ちたみ言葉を聞いたとき、彼らはこのお方を愛した。そして、彼らがパリサイ人たちに「なぜ、あの人を連れてこなかったのか」と聞かれたとき、「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」と答えた(ヨハネ 7:45, 46)。

わたしたちがキリストを眺めるとき、わたしたちはこのお方のみかたちに変えられていく。そして、このお方が来られるときに、このお方にお会いするのにふさわしいものとされる。今はわたしたちの主の来られるのに備えるための時である。この厳粛な場面のための準備には、熱心な働きと結合した油断のない見張りがなくてはならない。これらの二つの結合がわたしたちをキリストのうちに完成させる。活動と献身がキリストのうちにある人性と神性のようにならなければならない。こうして神の子らは神に栄光を帰するのである。生活上の忙しい場面のさなかに、彼らの声が、励ましや希望そして信仰の言葉を語るのが聞かれる。意志と愛情がキリストに捧げられる。こうして彼らは自分たちの主にお会いする準備をするのである。そして、このお方が来られるとき、彼らは喜びをもって、「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる」というのである。(ビュー・アンド・ワールド 1897年7月20日)

キリストと律法（Ⅱ）



神の律法の性質

ダビデは次のように言っている、「主のおきては完全であつて」（詩篇 19:7）。「わたしは早くからあなたのあかしによって、あなたがこれをとこしえに立てられたことを知りました」（詩篇 119:152）。そしてパウロは次のように証している、「律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であつて、正しく、かつ善なるものである」（ローマ 7:12）。

宇宙の最高統治者として、神はすべての生けるもののためばかりでなく、すべての自然の営みの統治のために律法を定めてこられた。万物、大なるものから小なるものまで、生物も無生物も、無視することのできない律法のもとに固定されている。この規則に例外はない。なぜなら、神のみ手によって造られたものは何一つ、神の思いによって忘れられてはいないからである。しかし、自然界のすべてのものが自然の法則に支配されている一方、知的存在者、すなわちその要求を理解することができるものは、道徳律に従うのである。神の創造の最高のみわざである人にのみ、神は神聖な律法の聖なる要求を悟る良心を与え、また律法を聖であつて正しくかつ善なるものとして愛することのできる心をお与えになった。そして人には、迅速で完全な従順が要求されているのである。それでいながら、神は従うように人を強制なさらない。彼は自由な道徳的存在者としてまかされている。

人の個人的な責任という主題は、わずかな人を除いてほとんど理解されていない。そしてそれでいながら、これは最も重大な問題なのである。わたしたちは各自、従って生きることもできるし、神の律法を犯し、このお方の権威に逆らい、そしてそれに相応する刑罰を受けることもできる。そうであれば、すべての魂に

は力強く次の問いが心に迫るのである、わたしは天からの声、シナイから語られた十の言葉に従うだろうか、あるいはわたしは炎のような律法を踏みじめる大多数と共に進むのだろうか。神を愛する人々にとって、このお方の戒めを守り、このお方の御目によしとされることを行うことが最高の喜びとなる。しかし、生来の心は神の律法を憎み、その聖なる要求に対して戦う。人々は自分の魂を神聖な光から遮断し、その神聖な光が自分たちの上に輝くときにそのうちを歩むことを拒む。彼らは利己的な満足や世俗的な利益のために、心の純潔、神の恩寵、そして自分の天国の希望を犠牲にするのである。

詩篇記者は、「主のおきては完全であつて」と述べている(詩篇 19:7)。エホバの律法は、その単純さ、その包括性と完全さにおいて、なんとすばらしいことであろう!それはすべての規則をたやすく暗記できるほど簡潔でいながら、神の御旨全体を表現し、外面の行動だけでなく、心の思想や意図、願望や感情を認識するほど遠大である。人間の法律はこれができない。それらは外面の行動を扱うことができるだけである。人は違反者でありながら、自分の誤った行為を人の目からは隠すことができるかもしれない。人は犯罪者―盗人、殺人者、あるいは姦淫者―でありながら、発見されない限り、その法律は彼を有罪に定めることができない。神の律法は、魂を通じてこみあげていても、意志ではなく機会がなかったために外面的な行為には表れなかった嫉妬、妬み、憎しみ、悪意、復讐、欲に注目する。そしてこれらの罪深い感情は、「すべての隠れた事を善悪ともにさばかれる」日に、責任を問われるのである(伝道の書 12:14)。

神の律法は単純である

神の律法は単純であつて、たやすく理解できる。自分は理解できることしか信じないと誇り高く豪語する人々がいるが、彼らは人の生活や自然のみわざにおける神の御力の表れの中に神秘があること―最も深い哲学も、最も広い研究も説明のできない神秘―があることを忘れている。しかし、神の律法には神秘は何もない。すべての人がその包括する偉大な真理を把握することができる。最も弱い知性でもこれらの規則を把握することができる。最も無知な者も、神聖な標準に従って生活を規制し、品性を形成することができる。もし人の子らが、自分の最高の能力に従ってこの律法に従うならば、彼らは神のご目的と計画をさらに理解する知力と識別力を得るようになる。そしてこの進歩は、この現世において

ばかりでなく、永遠の年月にわたって続くのである。なぜなら、どれほど遠くにわたしたちが神の知恵と力についての知識に進んでも、なおつねにその先に無限があるからである。

神聖な律法は、神を最高に、そして隣人を自分自身のように愛することを要求する。この愛を働かせることがなければ、信仰の最も高らかな公言も単なる偽善である。『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。これがいちばん大切な、第一のいましめである。第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている」とイエスは言われる（マタイ 22:37-40）。

この律法は完全な従順を要求する。「なぜなら、律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになるからである」（ヤコブ 2:10）。これらの十の規則のうち一つでも破れば、天の神に対して不忠実になる。怠慢や故意の違反によってその要求からはずれる最も小さな逸脱も罪であり、すべての罪は罪人を神の怒りにさらす。従順は、昔のイスラエルを神から高い恩寵を受けた民とする約束の成就を受けるための唯一の条件であった。そしてその律法への従順が、ヘブル人に大きな祝福がもたらしたはずであったように、今も個人に国家に大きな祝福をもたらすのである。

律法の従順は、わたしたちの救いのためばかりでなく、わたしたち自身の幸福とまたわたしたちとかかわりのある人々の幸福のために重要不可欠である。「あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまづかすことはできません」と靈感を受けたみ言葉は述べている（詩篇 119:165）。それでありながら有限な人間は人々に、この聖であって正しく善なる律法、この自由の律法、すなわち創造主ご自身が人の必要にあわせてくださった律法を、奴隷のくびき、人間が負うことのできないくびきとして提示するのである。しかし、律法を嘆かわしいくびきとしてみなすのは罪人であり、律法の規則の中に美しさを認めることができないのは違反者である。なぜなら、肉の思いば神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に従わず、否、従い得ないのである」（ローマ 8:7）。

「律法によっては、罪の自覚が生じる」（ローマ 3:20）。なぜなら、「罪は不法である」からである（ヨハネ第一 3:4）。人が罪を自覚するのは律法を通してである。そして彼らは自分の救い主の必要を悟る前に、自分自身が神の怒りにさらされた罪人であることを感じる。サタンは罪の嘆かわしい性質について人の評価を

滅じようと絶えず働いている。そして神の律法を足の下に踏みじめる人々は、大欺瞞者の働きをしているのである。なぜなら、彼らは自分たちが罪を明らかにし、違反者の良心に強く迫る唯一の規則を拒んでいるからである。

神の律法は、これらの隠れた目的にまで及び、それらは罪深いものでありながら、しばしば軽く見過ごされたかもしれないが、現実には品性の基礎であり、試金石なのである。神の律法はもし罪人が自分の道徳的品性を正しく知りたければ、見なければならない鏡である。そして偉大な義の標準によって自分が罪のあることを示されていることを認めるとき、彼の次の動きは自分の罪を悔い改めることであり、キリストを通して許しを求めることである。こうすることなく、多くの人々は自分の欠点を明らかにする鏡を壊そうと試み、自分たちの生活と品性にある傷を指し示す律法を無効にしようとしている。

わたしたちは大変な悪の時代に生存している。多大な群衆は罪深い慣習と邪悪な習慣によって奴隷にされており、破ることの困難なかせが彼らをつないでいる。悪が洪水のように地を欺いている。まったく言葉にするのも恐ろしい犯罪が、日々起こっている。そしてそれでいながら、シオンの城壁の見張り人だと公言している人々は、律法はユダヤ人のためにだけ定められたものであり、福音の時代に入ってからはその栄光の特権と共に過ぎ去ったのだと教えている。蔓延している無法や犯罪と、牧師や民が律法はもはや拘束力を持たないと考え教えていることには、相関関係がないであろうか？

神の律法の有罪宣告を下す力は、わたしたちのなすことばかりでなく、なさなかったことにまで及ぶ。わたしたちは神が要求しておられることをなせずに省略したことにおいて自らを正当化してはならない。わたしたちは悪を行うことをやめるだけではなく、良いことを行うことを学ばなければならない。神はわたしたちに良いわざを実行するための力を与えてくれた。そしてもしこれらの力が用いられないならば、わたしたちは確かに悪い怠惰な僕として記されるのである。わたしたちは嘆かわしい罪を犯さなかったかもしれない。そのような罪が神の書物でわたしたちのところに登録されていないかもしれない。しかし、わたしたちの行為が純潔で善であり高められた高尚なものとして記録されず、わたしたちが委ねられたタラントを活用してこなかったことを示しているという事実が、わたしたちを有罪宣告のもとへ置くのである。

神の律法は人が創造される以前から存在していた。それは聖なる存在の状態

にあわされていた。天使たちでさえもそれによって統治されている。墮落後も、義の諸原則は変更されなかった。何一つ律法から取り去られず、その聖なる規則の一つも改善することはできない。そしてそれが始めから存在していたように、それは永遠の果てしない時代を通じて存在し続けるのである。「わたしは早くからあなたのあかしによって、あなたがこれをとこしえに立てられたことを知りました」と詩篇記者は言っている(詩篇 119:152)。

天使たちを支配しているこの律法は、最も隠れた思想、願望、気質に純潔を要求し、また「これらは世々かぎりなく堅く立つ(詩篇 111:8)。全世界は速やかに近づいている神の日に裁かれることになる。違反者たちは、いと高き者は知らず、全能者は考えないとうぬぼれている。このお方はいつまでも彼らを耐え忍ばれはしない。まもなく彼らは自分たちのしたことの報いを受けるようになる。罪の支払う報酬は死である。その一方、義なる国民、すなわち律法を守ってきたものは、天の都の真珠の門を通して入り、神と小羊のみ前に不死と喜びをもって冠されるのである。(セレクトド・メッセージ 1 巻 216-220)

に記しました。「柔和な者は国を継ぎ、豊かな繁栄を楽しむことができる」(詩篇 37:11)。

これもこの聖書の言葉に同意して義なる者は地で報いられる」。彼らば国を継ぎ、とこしえにその中に住むことができる」(箴言 11:31 欽定訳；詩篇 37:29)。

最後の日の炎は「今の天と地」を滅ぼします。しかしそこには「新しい天と新しい地」とが現れるでしょう(ペテロ第二 3:7, 13)。天と地は新しく造られるでしょう。

「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」(コリント第一 2:9)。

人の言葉では、義人の報いを完全に述べることはできません。それを見る人だけが、それを知るようになるのです。わたしたちは神さまのパラダイスの栄光を理解することはできません。

しかしわたしたちは今でさえもその国を垣間見ることはできます。「それを神は御霊によってわたしたちに啓示してくださった」からです(同 2:10)。聖書が伝えるその国の光景は、わたしたちの心に大切なものです。

オートミールとキャベツのメンチカツ

■材料 (3 人前)

オートミール	1 カップ (水につける)
キャベツ	60 グラム (みじん切り)
玉ねぎ	1/2
なたね油	大さじ 1
クミンシード	大さじ 1/2
スパイス	適量 (クミンパウダー、コリアンダーパウダーを各少々合わせて)
しょうゆ	大さじ 1/2
塩	少々
顆粒昆布だし (衣)	小さじ 1/2
薄力粉	1/2 カップ
水	1/2 カップ
パン粉	適量
(ソース)	
キャベツ	60 グラム
オリーブオイル	大さじ 2
豆乳	90cc
白みそ	大さじ 1/2
顆粒昆布だし	小さじ 1/2

■作り方

1. フライパンに油を入れて熱し、クミンシードを入れて香りを出し、玉ねぎを炒め、さらにキャベツを加えてしんなりと炒めます。
2. ボウルに 1 と水切りしたオートミール、スパイス、塩、しょうゆ、顆粒昆布だしを加えて混ぜる。3 等分に丸くして軽く手で押して平たくします。
3. 薄力粉と水を混ぜた溶き液に 2 を通す。パン粉をさらに全体にまぶし、180 度に熱した揚げ油できつね色に揚げます。
4. フードプロセッサーにキャベツ、オリーブオイル、豆乳、白みそ、塩少々入れて攪拌します。
5. 器にメンチカツをのせて、上にソースをかけます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第65話

救われた者の家郷(1)

キリストの来られる日は、悪だけが滅びる日です。それは神さまの民のためばかりではなく、地球のためでもある贖いの日です。

神さまは地球を人のための住まいになるように創造なさいました。ここでアダムは創造主ご自身が美しくなされた喜びの庭に住んでいました。罪によって神のみ働きは損なわれましたが、それでも人類は創造主によって見捨てられてはいませんでした。地球のためのこのお方の目的もわきに置かれていました。

この地上に天使たちは贖いのメッセージをもっておとずれ、そして丘や谷は彼らの喜びの歌を響かせました。その土は神の御子の足によって踏みしめられました。そして六千年以上の間、その美しさと食物の賜物というかたちで、この地は創造主の愛を証してきました。



その同じ地球が、罪の呪いから自由にされて、人の永遠の住まいになるのです。聖書は地球についてこのように言っています。「いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主」(イザヤ 45:18)。そして「神のなさる事は永遠に変わることがなく」(伝道の書 3:14)。

山での説教で救い主は「柔和な人たちはさいわいである。彼らは地を受け継ぐであろう」と宣言されました(マタイ 5:5)。

詩篇記者はずっと昔にこのよう

(45 ページに続く)